

2022 年沖縄本土復帰 50 年 第 45 回 5・15 沖縄平和行進に参加して

関東地方横浜支部青年部 酒井 友樹

5 月 12 日から 5 月 16 日にかけて開催された、沖縄本土復帰 50 年、第 45 回沖縄平和行進に参加して、私なりに感じたこと、学んだことを報告します。

今回、初めて沖縄平和行進に参加させていただき、戦争とは何か、沖縄で何があったのか、沖縄県民はアメリカの事をどう思っているのかを考えながら過ごしました。

1 日目の平和学習講和で米軍統治下の沖縄の話聞き、知らない事や驚く話ばかりで緊張感を持つことができました。特に、1970 年、本土復帰 2 年前までは日本の国旗を掲げるのが禁止されていたため初めて国旗をみる人もいたと聞き、当たり前のように日本国旗を見てきた自分にとっては衝撃的な話でした。そして講和の中で、米軍にとって沖縄は良いところ。山と海がある。だから手放さない。との一言があり、簡単な話ではなく今後も続いていく問題だと改めて感じました。

今回の平和行進は視察が多く、基地や施設で深く学ぶことができました。ひめゆり平和祈念資料館、旧海軍司令部壕、嘉数の塔では当時の学校生活や暮らしを学ぶとともに、生々しく恐ろしい記録や説明があり、戦争の残酷さや普通の暮らしが突然奪われる事に恐怖を感じました。各施設には写真も展示されており、中でも幼い弟をおんぶするお姉ちゃんの写真と、小さい子供が米兵に手を見せている写真が、自分の家族と重なり感傷的になりました。

基地の視察では、とても長い滑走路が住宅街にあり、常に危険と隣り合わせの生活を強いられる近隣住民の苦悩は計り知れないと改めて思いました。また、辺野古新基地建設に関する視察では、塩川港のベルトコンベアーや山を切り崩すショベルカーを見て大掛かりな工事を実感し、新基地近くのビーチから見た目の前の辺野古新基地は想像以上の大きさでした。そして、綺麗な海が埋め立てられていくことに非常に悲しい気持ちになり、沖縄県民の気持ちを考えず一方的に建設を進める政府や米軍に対し、許せない気持ちがより一層強まりました。

3 日目の平和行進では、レンジャーを担当させていただきました。今回の行進は、宜野湾市民会館を出発して八重島公園までの約 9km と短い距離でしたが、少し歩けば米軍基地が

あり、また少し歩けば基地と、とても基地が多いことを実感しました。行進中に、妨害行為をする方や、乗用車の窓からおばあさんが中指を立ててくるなど衝撃的なことがあり、平和行進とは何か、少し考えてしまう自分がいました。しかし、遠くから手を振ってくれる人や沿道で拍手や声をかけてくれる人、応援してくれる人もいてとても励みになり、嬉しかったです。

4日目に懇親会があり、最後に今回の平和行進の団長である馬場さんの団結ガンバローで全行程を締めくくりました。

今回の平和行進に参加して、自分はテレビやインターネットに流れる一部の情報しか知らなかったと痛感し、恥ずかしく思いました。しかし、知らないからこそ今回参加して見たこと感じたことは多く、考えや意識が変わりました。沖縄県民にとっては産まれた時から基地があるため当たり前の感覚や、我々の基地反対の声に対して違う意見の声を聞き、悩み考える部分もありますが、戦争反対、戦争は悪いと言う気持ちは具体的な考えを含め参加前よりも何倍にも強まりました。今後は自分にできる事を小さくても行動にうつしていきたいと思い、まずは今回経験したことを家族、分会に伝えていく所存です。

最後になりましたが、お忙しい中受け入れ準備や期間中も様々な対応をして下さった沖縄地方本部の皆様、心より感謝申し上げます。そして、開催の決断をして下さった中央本部の皆様、ありがとうございました。